

1 教科の到達目標 (学習のねらい、身に付けたい力)

週3時間の希望制習熟度別「少人数クラス」を実施し、授業を行います。今年度は「発展コース」、「標準コース」、「基礎コース」の3コースを設け、2クラスを3展開して実施し、それぞれのペースに合わせて学習できるようにしていきます。「数学の基礎学力の定着とよりきめ細かな指導」、「自分から進んで学習に打ち込む生徒の育成」を目指します。一人一人の生徒の実態に応じて、より細かな指導を行うことにより、全ての生徒が毎時間の授業で「わかった」という経験を実感して、学習効果と学習意欲の向上を図ります。技能と共に、積極的に取り組み、自らの考えを表現する力も身に付けることを目標とします。年度当初は、希望アンケートをもとにクラス編成を行いました。今後はテスト終了後に申し出があれば変更していきます。

2 年間学習計画と単元 (題材)

学期	月	題材名・単元名	内容	達成目標 (ねらい)
1 学期	4	1章 式の計算 1 式の計算 2 文字式の利用	<ul style="list-style-type: none"> 同類項の意味と同類項をまとめる 式を加減法、多項式と数の乗除法 単項式どうしの乗除法 乗除の混じった単項式の計算 文字を用いた式で、数量や数量の関係を表したり、説明したりする 	<ul style="list-style-type: none"> 知文字を用いた式に関するいろいろな用語の意味を理解し、正しく使える。 知簡単な単項式、多項式での加法、減法、および、単項式どうしの乗法、除法の計算ができる。 知目的に応じ等式を変形できる。
	5	2章 連立方程式 1 連立方程式 2 連立方程式の利用 (定期考査)	<ul style="list-style-type: none"> 二元一次方程式とその解の意味 加減法、代入法による連立方程式の解き方 連立方程式を使って、問題を解決する 	<ul style="list-style-type: none"> 知連立二元一次方程式の必要性と意味とその解法を理解する。 思問題解決の場面で連立二元一次方程式を活用することができる。
	6 7	3章 一次関数 1 一次関数とグラフ 2 一次関数と方程式 3 一次関数の利用	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数の意味 一次関数の値の変化、変化の割合の意味 一次関数 $y = ax + b$ のグラフの意味 座標から式を求める 方程式 $ax + by = c$ のグラフ 連立方程式の解とそのグラフの交点の座標 事象の中から一次関数を見だし、一次関数を用いて問題を解決すること 	<ul style="list-style-type: none"> 知一次関数の意味を理解する。 知一次関数の特徴を理解し、一次関数のグラフがかけられる。 知直線が与えられているとき、その直線の式が求められる。 思具体的な事象を一次関数とみなし、それを問題解決に利用できる。
2 学期	9	4章 図形の調べ方 1 平行線と角 (定期考査)	<ul style="list-style-type: none"> 対頂角の性質 平行線と同位角の関係 	<ul style="list-style-type: none"> 知対頂角の性質、平行線と角の関係について調べる。
	10	2 三角形の合同 3 証明	<ul style="list-style-type: none"> 平行線と錯角の関係、三角形の内角の和 合同な図形の性質、三角形の合同条件 証明の意味と必要性、仮定と結論の意味 合同条件を使って簡単な図形の性質を証明すること 	<ul style="list-style-type: none"> 知三角形の内角の和について調べる。 知三角形の合同条件を明らかにする。 思合同条件を根拠にした証明の進め方や図形の性質の調べ方について理解する。
	11 12	5章 図形の性質と証明 1 三角形 2 四角形	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形、正三角形、直角三角形の定義とその性質 いろいろな四角形の定義とその性質、性質の証明平行線による等積変形を使った作図 	<ul style="list-style-type: none"> 思三角形の合同条件を使って、いろいろな三角形の性質を証明し、図形の性質の調べ方を理解する。 知いろいろな四角形の性質や平行四辺形になる条件について理解する。 知等積変形などについて理解する。
3 学期	1	6章 データの活用 1 データの散らばり 2 データの傾向と調査	<ul style="list-style-type: none"> 四分位数、四分位範囲の定義と用語 箱ひげ図の作り方と見方 箱ひげ図を用いたデータの傾向の調査 	<ul style="list-style-type: none"> 知四分位数および四分位範囲の必要性と意味を理解する。 知情報手段を用いてデータを整理し、箱ひげ図で表すことができる。
	2			<ul style="list-style-type: none"> 思分布の傾向を読み取り、考察し判断することができる。
	3	7章 確率 1 確率 (定期考査)	<ul style="list-style-type: none"> 同様に確からしいの意味と確率の求め方 簡単な場合について確率を求めること 	<ul style="list-style-type: none"> 知確率の必要性と意味を理解し、確率を求めることができる。 思確率を用いて不確定な事象をとらえ説明することができる。

3 評価方法

評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技能	○言葉の意味を理解している。 ○定理・公式を理解している。 ○例題の解き方を理解している。 ○定理・公式を用いて計算することができる。 ○例題の解き方をまねして計算することができる。	・授業中の課題 ・小テスト ・単元テスト ・定期考査
思考・判断・表現	○定理・公式を用いて説明することができる。 ○いろいろな解き方を考えることができる。 ○自分の考え方を発表することができる。	・授業中の課題 ・単元テスト ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	○問題を意欲的に取り組もうとしている。 ○粘り強く問題に取り組もうとしている。 ○積極的に課題解決、発表しようとしている。 ○授業の準備ができています。 ○提出物を提出できています。	・ワークシート ・観察 ・授業の取組

4 授業の取組についてのアドバイス

- ・積極的に自分の考えをみんなの前で発表していけるようにしましょう。失敗することを恐れずに、自分の考えを発表してください。授業での課題への取組方すべてが評価につながります。
- ・頻繁に小テストを行っていきます。毎時間の授業の復習をしっかりと行ってください。
- ・各単元が終了する毎に、振り返りのワークシートとテストを行います。しっかりと取り組み、自身の学ぶ姿勢を見直すきっかけとしてください。
- ・質問はいつでも受け付けます。積極的に質問をし、疑問を解決してください。

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

- ・予習の必要はありません。復習を大切にしてください。授業が行われた日に必ず復習をしてください。授業のノートを丁寧にとる必要はありません。家庭学習用のノートをつくり、授業ノートを自分なりに作り直すと思います。類題等を解いてノートに追加していくとより良いと思います。
- ・問題集を購入します。取り組む部分を指示していきます。指示されたらすぐに取り組んでください。また、各時においても授業の進行に合わせて進めてください。
- ・家庭学習用の問題集（問題量が多い方がよい）を購入して、自主的に学習を進めていくとよいと思います。来年度につながっていきます。

6 定期考査・まとめテスト前の取組についてのアドバイス

- ・まず授業中に行ったことを見直し、習得に向けて問題演習を行いましょう。
- ・日々の努力が一番大切です。小さな積み重ねが大きな成果を生みます。考査前のみならず、日頃の学習習慣を付けてください。

7 苦手な人の取組についてのアドバイス

- ・理解できないことがあれば、すぐに質問に来てください。後回しにはしてはいけません。
- ・多くの問題に取り組む、慣れることが必要です。